

第1回燃料アンモニア国際会議 議事総括

2021年10月6日

1. 2021年10月6日、経済産業省及び一般社団法人クリーン燃料アンモニア協会（CFAA）主催の下、第1回燃料アンモニア国際会議がオンラインで開催された。
2. 本国際会議には多くの方々が興味を持ち、1,500名を超える登録があった。政府・国際機関としては5か国と国際エネルギー機関（IEA）からの登壇があり、産業セッションでは7か国から合計14件の発表が行われた。またこの会議の場で、株式会社IHI、TNB Power Generation社、PETRONAS Gas and New Energy社の間でアンモニアの石炭混焼に関する協力協定のサイニングが行われた。
3. 先ず全体を通じてみると、燃料アンモニアの脱炭素化に向けた活用に対する関心が世界的に高まってきていることが理解される。エネルギー供給国では、世界的な脱炭素化の流れの中で、燃料アンモニアを新たなクリーンエネルギーの供給手段として戦略的に活用しようという動きが具体的に出てきている。一方、消費国でも燃料アンモニアの活用の動きが日本のみならずアジアでも出てきている。
4. IEAのビロル事務局長は、燃料アンモニアは、稼働年数が低い火力発電所が多く存在するアジアにおいて既存の火力発電所の低炭素化に大きな役割を果たすと述べた。正に、今回の三社の協力協定はそれを実現する第一歩となる重要な取り組みである。
5. 産業セッションでは、生産、供給、輸送、利用までのバリューチェーンに関する興味深い取組が紹介された。
6. 生産、供給に関しては豪州、米国、サウジアラビア、ノルウェー、南米におけるブルーアンモニアとグリーンアンモニアの供給ポテンシャルの紹介があり、遠からずクリーンな燃料アンモニアの供給が実現する可能性が高いことが示された。生産設備については、燃料アンモニアの大規模市場の形成を視野に大型化、モジュール化によるコストダウンの検討も進められている。
7. 利用技術については、発電での利用技術が大きく進展しており、日本政府の支援の下で、最終的には燃料アンモニアの単一燃料で、ゼロエミッションの燃料アンモニア発電の完成を目指していく方向である。こうした中、発電事業者はクリーン燃料アンモニアの供給とその発電技術を駆使してカ

ーボンニュートラルを目指そうとしている。

8. 海上輸送に関しては、船舶の大型化、そして船舶燃料としての活用による脱炭素化の検討が進んでおり、船舶燃料としての活用はヨーロッパも含めてグローバルな動きとなってきている。日本企業として、LNGで培ってきたノウハウも活用して燃料アンモニアサプライチェーンに積極的に取り組んで行こうという動きも顕在化している。
9. こうした中、サプライチェーンの構築に向けては、日本政府として、日本の官民で専門的な議論を行うタスクフォースを立ち上げて、来年のこの会議に向けて解決策を取りまとめていくとともに、燃料アンモニアの生産、調達へのファイナンス等の支援の方向性が示された。
10. 本国際会議では、燃料アンモニアバリューチェーン構築に向けた官民による戦略的取組が具体的に検討され、推進されていることが示された。また、新たな戦略的なエネルギーバリューチェーンの構築に向けては、生産国と消費国、更には技術移転を通じた国家間の国際連携も極めて重要であることも本日の議論にて確認できた。そして燃料アンモニアバリューチェーンの実現が極めて近いということも見えてきた、非常に有意義な会議であった。
11. 来年は、さらに進んだ姿を参加者と共有できることを期待している。

(了)